

小学校教師による小1生活科・道徳の教材研究－1枚の写真を通して

さくらの花

作成：中村俊哉（なかむら としや／神奈川県川崎市立南菅小学校 教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）*



◀ 菅馬場公園のさくら

語り：「さくらの花が満開です。さくらの花は、雨が降った後や強い風の後にはたくさんの花びらが散ってしまっているような感じがするので、弱い花だと思っていませんか。しかし、実は、弱くはないんだそうです。花が咲き始めてから1週間あまり咲き続けるのですが、その間は多くの雨が降っても、強い風が吹いても散ることはないそうです。一所懸命雨や風に耐え、時が来ると風や雨とともに散っていくということなのです。

その散った花はどうなるかわかりますか？

さくらの花は、あっという間に腐っていきます。

あんなにきれいに咲いた花なのに、すぐに腐って汚くなってしまいます。しかし、それが大事なのです。散って腐った花びらを微生物という目に見えない生き物が、目に見えなくなるくらい小さくしているのです。その小さくなったものが土の中の栄養になります。その栄養を桜の木は根から吸い取り、自分の栄養にしていくのです。自分の栄養とするので、咲いた花は決して無駄になってしまいうけではないのです。

自分で咲いた花をまた、自分の力にして、頑張っているのですね。」

意図（中村）：桜の木は、日本のさまざまな所にある木であり、花見をするなど、子どもたちにとって、親しみのある木である。子どもたちは生活科の探検で、花が咲き、散っていくところを見ていく。その桜がただきれいに咲き、ただ散っていくのではなく、意味があり、一所懸命に生きようとする生命なのだということを感じさせたい。

寸評（山下）：サクラは、小さな子どもにも身近な樹木であり、開花の時期は特に強い関心の対象となる。そうした機会をとらえて、小さいときから樹木への関心を持たせることが重要である。そして、樹木の生命力や美しさなどに心を動かす体験を提供するとともに、樹木に関する初歩的な知識に触れさせることも必要なことである。ただし、小さい子どもに対する知識の提供は、どのような言葉を使って、どの程度までの正確さで行うのかといった難しい問題に直面する。森林環境教育の重要な課題として検討しなければならない。

* 山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）